

三遊亭京楽さん「環境落語」を開催 笑いで環境の大切さを伝える

去る6月30日、落語家・三遊亭京楽さんの「ミュージカル環境落語」が東京・港区の赤坂区民センターで開催された。環境落語は京楽さんが1995年から行っている「チャリティー寄席」の一環。防災や福祉から始まったチャリティー寄席で環境がテーマとなるのは今回で5回目という。

チャリティー寄席は古典落語、京楽さんへのインタビュー、環境ミュージカル落語の3部構成。

古典落語「火焰太鼓」は三遊亭大楽さんが行い、テーマは「古いものを大切に」。続いて「新しいものに挑み、人の絆を大切に」をテーマにした、京楽さんの古典人情噺「中村仲蔵」が披露された。

中入り後は京楽さんへのインタビュ

ー。「落語と環境よもやまばなし」と題して衆議院議員のこびき司氏、鈴木けいすけ氏とともに、どうすれば人々の環境への意識が高まるのかなど、環境に関するさまざまな話が笑いを交えながら紹介された。

とりは環境落語「ヒマラヤの北斗七星」。京楽さんが創作した、歌や映像を駆使したミュージカル落語だ。女医の姉とネパールにやってきた、ブランド大好き、面倒なことは大嫌いな「いまだきのギャル」が、現地で暮らすうちに自然の美しさ、家族の大切さに気づく、というストーリー。音楽や写真がふんだんに取り入れられているので情景が分かりやすく、もちろん随所に笑いも織り込まれている。楽しみながら環境について考えさせられる作品で、

集まった300人の聴衆からは惜しみない拍手が送られた。▼

※三遊亭京楽さんは「今月の旬な人」として5頁にも登場。



300人の聴衆が京楽さんの落語を堪能した。

「全国いっせい開幕 打ち水イベント」開催!



スヌーピーもゲストとして打ち水に参加。

「打ち水大作戦」が始まって5年。昨年の参加人数は全国で約770万人にのぼり、夏の環境活動としてすっかりおなじみになったイベントが、2007年も始まった。

打ち水大作戦とは、日時を決めて残

り湯などの二次利用水を使い、みんなでいっせいに水をまくもの。水が蒸発する際に熱が奪われるのを利用して気温を下げるのがねらい。作戦開幕日である大暑の7月23日には、各地でさまざまなイベントが行われた。

東京・浅草寺で開催された「全国いっせい開幕 打ち水イベント」もその一つ。太陽電池発電トラック「エコモーター」による特設ステージを使用し、神子台東区副区長や歌手の加藤登紀子さんによるメッセージのほか、木曾福島、名古屋などの各地の取り組みの様子が紹介された。

打ち水作法の説明ののち、正午にい

っせい打ち水開始。1.5トンの再生水(通常の下水処理過程に加え、ろ過、減菌を施した水)を、間伐材を使用して作られた桶を使い、雷門前から仲見世通り、浅草寺境内おみくじ前のエリアで水まきが行われた。当日は浴衣姿の大使館関係者やスヌーピーもゲストとして参加。一般観光客も多数加わり、あいにくの曇り空だったが打ち水によって気温が約1℃下がったという。今年の打ち水大作戦は処暑の8月23日までの1ヵ月間で、各地でさまざまなイベントが行われる予定。

<http://www.uchimizu.jp/07/index.html>

▼